

ボーリング柱状図

調 査 名

事業・工事名

ボーリングNO.													
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNO.

ボーリング名	B-4(付替市道)		調査位置	北 緯	36° 50' 54.9900"		
発注機関	栃木県 大田原土木事務所			調査期間	2009-07-16 ~ 2009-07-16		
調査業者名	主任技師			現場代理人	コ	ア	ボーリング責任者
孔口標高	311.63 m	角 度		試錐機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	5.00 m	方 向		使用機種	エンジン ポンプ		

標尺	層厚	深 度	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験				原位置試験 深 度 (m) 試 験 名 および結果	試料採取 深 度 (m) 試 料 番 号 採 取 方 法	室 内 試 験	掘 進 月 日
											深 度 (m)	0 打撃回数	10 打撃回数	20 打撃回数				
311.38	0.25	0.25		表土 (SF) 礫混り砂質シルト (MS-G)	暗褐灰		中位	非常に軟質な有機質シルトから成る。植物根を多量に混入する。 層は全体に不均質で礫混り砂質シルト状を呈する。礫は10~40mmの岩片を主体に最大60mm程を混在する。 GL-1.5m以深、シルト分の含有が多く、礫分を減少する。			1.15				7			
309.43	1.95	2.20		強風化岩 (WR) 頁岩 (Sh)	暗灰			土砂用ビット(メタルクラウン刃先)で掘進可。風化・変質が岩芯にまで至り、原岩組織が破壊され、岩性を有さない。コアは礫混り土砂状で採取される。 岩盤用ビット(ダイヤモンド刃先)での掘進が不可欠となる。GL-3.1~3.35m間、弱風化を受け、幾分かの脆さを感じる。 全体に層理の発達が悪しく、コアは角礫状を主体に部分的に片状~5cm程の短棒状で採取される。 風化・変質が層理面に沿って見られるものの、岩体自体の硬度劣化は無い。			1.45	3	2	2	7	30		
308.83	0.60	2.80		強風化岩 (WR) 頁岩 (Sh)	暗灰						2.15				11	30		
306.55	2.28	5.08		強風化岩 (WR) 頁岩 (Sh)	暗灰						2.45				4	4		
											3.15				12	50		
											3.37	18	20	2	22	50		
											4.15	50			9	50		
											4.24				9	50		
											5.00	50			8	50		
											5.08				8	50		